

# 建築家フランク・ロイド・ライトと I N A X タイルのルーツ



帝国ホテル日本館中央玄関部（博物館明治村）



帝国ホテル煉瓦製作所のすだれ煉瓦制作風景（谷川正巳氏よりI N A X が譲り受けた写真）



透かしテラコッタ復元



すだれ煉瓦復元

フランク・ロイド・ライト（Frank Lloyd Wright、1867/6/8～1959/4/9）世界的に著名なアメリカの建築家。

1916（大正5）年、当時帝国ホテルの支配人だった林愛作が、フランク・ロイド・ライトに新館の設計を依頼し、契約覚書を取り交わしました。ライトの材料と色へのこだわりは強く、煉瓦の色に当時一般的であった赤ではなく黄色みの色を求め、愛知県知多半島の粘土を使用した煉瓦を採用することになりました。そして、450万個の煉瓦製造のため、愛知県常滑に専用の「帝国ホテル煉瓦製作所」をつくりました。1923（大正12）年9月1日、新館（ライト館）落成式の準備中に関東大震災に襲われましたが、周辺の多くの建物が倒壊した中で、ライト館はほとんど無傷でした。これは、ライトがスクラッチ傷を意匠としたすだれ煉瓦を、煉瓦積み構造材としてではなく鉄筋コンクリート構造の表面装飾材として用いたためであり、その後、鉄筋コンクリート構造にスクラッチタイル張りのビルが増えたきっかけにもなっています。当時、常滑で土管工場を営んでいた伊奈初之丞・長三郎親子は帝国ホテル煉瓦製作所の技術顧問を務め、帝国ホテル竣工後に役目を終えた従業員と設備を譲り受け1924（大正13）年、「伊奈製陶株式会社（株式会社I N A Xを経て現株式会社LIXIL）」を創業しました。